

国語科学習指導案

授業Ⅱ

6年1組 34名 指導者 野里 賢志

本授業は、以下の検証を行うものである。

「ペンタゴン・ロジック」と意見文を比較し、文章全体の構成や書き表し方に着目して、質問や助言をし合うことは、国語科における「深い学び」を実現するための手立てとして有効であったか。

1 単元 意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう(教材名「未来がよりよくあるために」)

2 目標

話し合いで深めた考えを基に、文章構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える文章を書くことができるようにする。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 思考に関わる語句を、話や文章の中で使うことができる。 ○ 意見文の構成について理解している。	○ 立場や意図を明確にしなが ら、互いの考えを広げたり 深めたりしている。 (話すこと・聞くこと) ○ 事実と感想・意見を区別し て書いたり、引用したりして 自分の考えをまとめて書い ている。(書くこと)	○ 社会の事象に関心をもち、 互いの考えを知ろうとして いる。 ○ 自分の考えが読み手に伝 わるように、進んで意見文 を書こうとしている。

4 単元について

(1) 単元について

本単元は、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」との複合単元となっており、集めた情報を整理し、互いの意見を聞き合って考えを深めたり、その考えが説得力をもつように、文章構成や書き表し方を工夫して書いたりする力を高めることをねらいとしている。

教材「未来がよりよくあるために」は、現在の社会や自然環境、身の回りのことなどに目を向けることで、どんな未来にしたいのか、そのために何ができるのかを考えられる内容となっている。そして、その根拠となる情報を調べ、互いの意見を聞き合って考えを深めることで、説得力のある意見文にまとめていくことに適している。

ここでの学習は、絵から読み取ったこと(事実)と、感じたこと(感想や意見)を区別し、表現を工夫して書く「読み取ったことや感じたことを表現しよう」(教材「この絵、私はこう見る」)の学習につながるものである。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、第5学年教材「グラフや表を用いて書こう」の学習で、理由付けを明確にして説明文を書いたり、第5学年教材「一まいの写真から」の学習で、物語文を書いたりするなど、様々な様式で書くという経験を積んできている。一方、説得力のある文章にするために、友達の発言から考えを広げたり、予想される反論を取り入れたりして文章を書くことは難しいと感じている。

そこで、本単元では、「ペンタゴン・ロジック」を用いて、自分の意見と事実を区別しながら書き、予想される反論とそれに対する自分の考えを整理して表現できるようにする。

(3) 指導について

導入では、資料「平和のとりでを築く」を読んだ後、よりよい未来について交流することで、未来のために自分に何ができるかを考えることができるようにする。そして、出された意見を分類することで、自分のテーマを明確にし、学習に対する課題を焦点化することができるようにする。また、平和な未来だけでなく、自然環境や身の回りの事象に目を向けることで、よりよい未来について、自分の考えが論理的に表現された意見文にしたいという「思いや願い」をもつことができるようにする。さらに、自分の考えが論理的に表現された意見文を、地域の方や先生など、

関係のある方々に渡して読んでいただくという言語活動を設定することで、相手を意識した意見文を書くことができるようにする。

展開では、取材してきたことを基に自分の主張とその理由をもち、互いの意見を聞き合うことで、考えを深めることができるようにする。また、その考えを基に、「ペンタゴン・ロジック」を活用することで、自分の考えを整理することができるようにする。

終末では、「ペンタゴン・ロジック」を活用することで、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成を考えた意見文を書くことができるようにする。そして、書いた意見文を互いに読み合い、質問や助言をし合うことで、自分の考えを広げたり深めたりしながら説得力のある意見文にすることができるようにする。また、単元を通して三つの視点で振り返ることで、学んだことを自覚したり、次時の学習につなげたり、言語生活の中で生かしたりすることができるようにする。

5 指導計画（総時数 11 時間）

過程	主な学習活動	時間
課題をつかむ	1 「平和のとりでを築く」を読み、未来について話し合い単元の学習課題と計画を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">私たちの思いが伝わる意見文にするには、どのように書けばよいだろうか。</div>	1
	2 どんな未来にしていきたいかを考える。	1
情報を基に考える	3 考えの根拠となる情報を図書館やインターネット等で調べる。	2
	4 互いの意見を聞き合い、考えを深める。	1
	5 自分の考えを「ペンタゴン・ロジック」で整理し、意見文の組み立てを考える。	2
主体的に表現する	6 「ペンタゴン・ロジック」を基に、自分の考えを文章にまとめる。	1
	7 意見文を読み合い、質問や助言を行い、自分の考えを広げたり深めたりする。	1 (本時)
	8 友達からの質問や助言を基に、意見文を修正し、清書をする。	1
	9 意見文を読み合い、単元で学んだことを振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに質問や助言をすることで、考えが深まる。 ・ 事実と自分の考えを区別して書くとよい。 ・ 反論を取り上げて、それに対する自分の考えを入れると説得力が増す。 </div>	1

6 本時（9 / 11）

(1) 目標

互いの意見文を読み、質問や助言を行うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(2) 評価規準

文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりするなど、互いの意見文のよいところを見付けることができている。 【思考・判断・表現】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、互いの意見文に対して、質問や助言をすることで、説得力のある意見文にするという見通しをもつことができるようにする。

「調べる」過程では、互いの「ペンタゴン・ロジック」と意見文を比較することで、文章構成や書き表し方の工夫を見付けることができるようにする。その際、友達と質問や助言を行い、対話活動を充実させることで、構築した考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

「まとめる・生かす」過程では、三つの視点から本時の学びを振り返ることで、本時の学びを自覚し、次の学びへの意欲を高めることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 前時までの学習を振り返る。 「ペンタゴン・ロジック」の中には、キーワードが入っていたよ。 ・ もっと説得力のある意見文にしたいな。 2 本時のめあてを確認する。 説得力のある意見文にするには、どのようなことに気を付けて書けばよいだろうか。	○ 学習計画表を確認することで、本時の学習への見通しをもつことができるようにする。 ○ 前時までに作成した「ペンタゴン・ロジック」と意見文を見比べることで、説得力のある意見文を書きたいという「思いや願い」につなげることができるようにする。 ○ モデル文と「ペンタゴン・ロジック」を比較することで、文章構成や内容など、書き方の工夫を見付けることができるようにする。 ○ 書き方の工夫に関連した質問や助言を行うことで、意見文を書くときの工夫やよさを見付けることができるようにする。
調べる	30	3 モデル文や「ペンタゴン・ロジック」から、書き方の工夫を見付ける。 ・ 段落同士がつながっているね。 ・ 繰り返し使われている言葉は、伝えたいことなのかな。 4 友達と考えを伝え合い、自分の考えを論理的に再構築する。〔他者とつなぐ〕 (1) アドバイスを伝え合う。【7分】 ・ もっと分かりやすい言葉にしないと伝わらないな。 ・ 調べたことをたくさん書きすぎて分かりにくいな。 (2) グループで検討する。【8分】 ・ 具体例があると、読む人には、伝わりやすいね。 (3) 全体で検討する。【10分】 ・ 事実と理由は区別して書こう。 ・ 質問に対して、説得力のある事例や考えを書くと、分かりやすいね。	○ 集団での話し合いを取り入れることで、友達の多様な考えを理解し、自分の考えに効果的に反映させていくことができるようにする。 ○ 視点を与えることで、説得力のある意見文を書くための工夫について話し合うことができるようにする。 ※ 文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりするなど、互いの意見文のよいところを見付けることができている。(ワークシート・発言) 【思考・判断・表現】
まとめる・生かす	10	・ 自分の考えが伝わるように、構成を工夫するとよい。 ・ キーワードを入れて、つながりのある文章にするとよい。 (4) 一人で考えを再構築する。【5分】 ・ 文末表現を工夫したり、分かりやすい言葉に書き換えたりしよう。 5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。〔自分とつなぐ〕 (内) 双括型にすることで、自分の考えが相手に伝わりやすくなるね。 (活) 友達から意見をもらうことで、新たな発見ができた。 (次) 清書をして、地域の方に自分の考えを知ってもらいたい。	○ 書き方の工夫を見付けたグループは、発表ボードに記入し、考えを黒板に分類することで、新たな考えを広げることができるようにする。 ○ 考えを整理する時間を設定することで、全体で共有した視点から、意見文を見直すことができるようにする。 ○ 「学習内容」、「学習活動」、「次時への意欲や見通し」の三つの視点から本時の学びを自覚化し、次の学びへの意欲が高まるようにする。 ○ 学習計画表を確認しながら、次時の学び（意見文の修正・清書）への見通しをもつことができるようにする。